

豊かで幸せな人生 100 年時代に向けた、恋愛の役割はなにか：  
恋愛格差社会における支援の未来形

成蹊大学 小林盾

本報告では、豊かで幸せな社会の実現のために、恋愛の役割はなにかを検討しました。ただし、恋愛・結婚・出産はあくまで個人の自由であり、決して押しつけてはいけないことが、前提となります。

分析では内閣府「人生 100 年時代における結婚・仕事・収入に関する調査」などのデータを用いて、男女別に 2 変数の関連を調べていきました。恋愛経験は、中学卒業から初婚（未婚なら現在）までの恋人人数で測定されます。恋人人数の帰結を分析したところ、男女とも恋人が多いほど、おおむね幸せとなるチャンス、結婚チャンスが増え、貧困チャンスが減りました。とくに、0 人から 1 人で変化が大きいことが分かります。したがって、恋愛は幸せのエンジンの一つといえそうです。

恋人人数の規定要因を分析したところ、若さが女性で恋人人数を増やしましたが、男性では減らしました。高い教育は恋人人数を減らし、高い容姿レベルと収入レベルは恋人人数を増やしました。これらから、グループによって人びとの恋愛チャンスに偏りがあり、いわば恋愛格差があることが分かりました。

そこで、恋愛格差解消の一つの方法として、恋愛支援を提案しました。支援というからには対象は希望者のみで、決して強制とはできません。支援を「受けない自由」もあります。また、恋愛はハラスメントと結びつきやすいため、ハラスメントの加害者にも、被害者にもならないよう、ハラスメント防止の対策が不可欠です。

ゼロからのスタートは難しいので、すでに行われているものに組みこむほうがスムーズでしょう。例えば、各地で行われている結婚支援事業に、恋愛支援を組みこむことが考えられます。これらの結婚支援事業でも、印象改善のアドバイスなどが行われています。

また、すでにハラスメント防止教育で、デート DV などのリスクが伝えられています。そこに恋愛支援を組みこむこともできるでしょう。例えば、壁ドン、告白、プロポーズなどを模擬体験することで、ハラスメント防止教育にこれらのハラスメントリスクを組みこめます。壁ドンは身体接触を伴いませんが、ハラスメントとして容易に理解されやすいことでしょう。ルッキズムとなりうるような言動についても、ハラスメントリスクのある事例として扱ってほしいところです。

なお、これらは社会全体の課題です。そのため、民間、NPO、地方自治体などが主体となり、国には「支援の支援」を行うことが期待されます。学校だけでなく、職場、地域でもハラスメント防止教育は行えるはずです。また、恋愛支援の目的は幸せな人が増えることであって、結婚や出産であってはいけません。

我われが目指すべきは、恋愛・結婚・出産「する人」も「しない人」も、等しく幸せな社会であるべきです。本報告では、そのための一つの考え方を提示しました。